

平成22年

入学試験を施行

日本歯科大学新聞

東京千代田区富士見
日本歯科大学新聞会
発行兼 中原 泉
編集人
発行日 偶数月末日
発行部 1部10円
編集室 (〒951-8580)
新潟市中央区浜浦町1-8
☎ 025 (267) 1500



本学のシンボルマーク



受験生たちの緊張につつまれた試験会場 (2月1日・東京)

両学部部の合格者発表

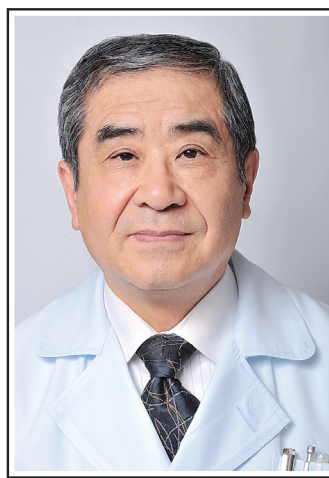
東京短大、新潟短大の入学試験も

平成二十二年度の日本歯科大学入学試験は、一月中旬のセンター試験と二月初旬の本学試験をもって施行し、両学部部の合格者を発表した。あわせて、東京短期大学と新潟短期大学の入学試験が行われた。

平成二十二年度の入学試験(センター入試)と、二本立てで行われた。試験は例年どおり、大学本学で実施する一般選抜センター試験(本学試験)の十六・十七日に全国の七

澁井教授(小児歯科)逝去

本学生命歯学部附属病院小児歯科の澁井尚武教授は、一月三十日心不全のため逝去された。享年六十五歳。葬儀と告別式は二月三日、東京足立区の斎場で執り行われた。故澁井教授は、昭和十九年五月生まれで、四十四年三月本学卒業(第五十八回卒)。大学院修了後小児歯科学教室助手、講師、助教授を経て、附属病院小児矯正歯科教授に就任。附属病院第一副院長などを歴任した。体験型シミュレーションシステム「シムロイド」の開発責任者として、その実用化に尽力した。



ありし日の澁井教授

十九年五月生まれで、四十四年三月本学卒業(第五十八回卒)。大学院修了後小児歯科学教室助手、講師、助教授を経て、附属病院小児矯正歯科教授に就任。附属病院第一副院長などを歴任した。体験型シミュレーションシステム「シムロイド」の開発責任者として、その実用化に尽力した。

辞令

Traykova Ana Emiliyova
助教として採用する(生命歯学部(寄附講座) 歯髄生命科学講座)
平成二十一年十一月一日

医学博士 西田 紘一
名誉教授の称号を授与する
短大教授 上野 隆治
博士(医学) 荒井 桂

教授に任命する(東京短期大学歯科技工学科) 略歴・昭和58年3月東京水産大学卒業。同年4月本学歯学部解剖学第一講座助手、平成9年4月講座を経て、17年4月東京短期大学准教授に就任。
平成二十二年一月一日

に、センター入試利用の後期試験は三月十六日に実施した。なお、東京短期大学では、一月二十四日に一般入試試験を、新潟短期大学では、一月二十三日に一般選抜入学試験を施行した。

本学 歯学博士 澁井 尚武
名誉教授の称号を授与する
平成二十二年一月三十日
本学 歯学博士 荒井 桂
名誉教授の称号を授与する
平成二十二年三月一日
本学

本学試験の前期試験は、生命歯学部(東京)において、三科目(英語・数学・理科)の学力試験と面接試験を二月一日に実施、四日に合格者を発表した。センター入試利用試験は、二月五日に生命歯学部(東京)において面接試験を実施し、七日に合格者を発表した。合格者の受験番号は、いずれも生命歯学部本館メモリアルホールに掲示発表し、本学ホームページに公表した。追って、一般選抜の後期試験は二月二十七日

中原学長が受賞
日本歯科医学会長賞
中原学長は、このたび平成二十一年度日本歯科医学会長賞を受賞した。平成二十一年一月二十二日、学会第八十三回評議員会において授賞式が行われた。同賞は日本歯科医学最高賞で、日本歯科医学教育学会からの推薦により今回の受賞となった。

平成22年度歯学会大会のお知らせ

平成22年度日本歯科大学歯学会総会・大会を下記のとおり開催いたします。会員の皆様の多数の参加をお待ちしております。

- ◇日時 平成22年6月5日(土) 11:00 ~ 17:00
- ◇会場 生命歯学部富士見ホール・展示ホール
- メインテーマ「**歯科医療のNeedsとDemands**」
- 特別講演「在宅医療の現状と展望」
新田國夫 (国立市医師会長, 日本医師会代議員)
- シンポジウム「在宅歯科診療を科学する」
堀 憲夫 (日本歯科医師会社会保険担当理事)
- 細野 純 (東京都歯科医師会高齢者保険医療常任委員会委員長)
- 近藤匡晴 (静岡市歯科医師会)
- 菊谷 武 (日本歯科大学附属病院口腔介護リハビリテーションセンター長)

今年、平成13年に行われた日本歯科大学機構改革から、ちょうど10年目にあたります。時代の波が大きく揺れ動いているこの時期に、再構築された本学の研究室、診療科は歯科医療のNeedsにどのように応えてきたのか? この機会に提示し、議論したいと思えます。また平成22年は、医療保険改正の年でもあります。現代医療は、外来・入院・在宅医療の三本柱で成り立っており、在宅歯科診療の重要性は常日頃論じられています。しかし一方で、在宅歯科診療を科学的に分析する機会は限られています。特別講演とシンポジウムでは、在宅医療そして在宅歯科診療に必要なEBMとNBMをとりあげています。興味深いテーマをそろえた歯学会大会で、新しい知識を獲得されるよう期待しています。

大会長 羽村 章 (附属病院長)
お問い合わせは準備委員長 石田鉄光 (附属病院総合診療科4)
TEL 03-3261-4751 E-mail:ishidakn@tky.ndu.ac.jp

日本歯科大学 OPEN CAMPUS 2010

~高校生はもちろん、どなたでも参加できます~

◇新潟生命歯学部オープンキャンパス
4/3(土), 6/12(土), 7/18(日), 8/28(土), 9/19(日), 11/20(土)
新潟生命歯学部で実施するAO入試の受験には、オープンキャンパスへの参加が必須です(昨年度の参加も可)

新潟生命歯学部 検索 <http://www.ngt.ndu.ac.jp>

◇生命歯学部(東京)オープンキャンパス
7/10(土), 8/19(木), 8/26(木), 10/16(土), 11/3(水), 11/4(木)

生命歯学部 検索 <http://www.tky.ndu.ac.jp>

東京短大・改修工事が竣工 校舎全館の見学会を行う

東京短期大学(小口) 春入学長では、昨年二月から校舎全館の改修工事を進めていた。新年度を前に、基本的な改装がほぼ竣工したので、本学関係者が校舎の見学会を行った。

三月二日の午前十一時、短大五階の五〇二講堂には関係者約五十名が集まり、まず中原理事長、小口短大長などの挨拶があった。ついで、米澤



小口短大長(左)の先導で、校舎内を見学する中原理事長(上)、最新の実習用チェアの説明(下)



登用度菅繕部長が改修工事の事業概要を説明し、竣工した校舎内を六階から順に見学。最新の実習用チェアや技工実習用器材・機器については、歯科技工学科や歯科衛生学科の担当教員が熱心に説明した。

今回の改修では、各講

義室・実習室の天井や床、給排水管を更新し、実習機、技工機、作業台、実習用歯科ユニットの新設など、建物内の全面的工事を行った。

六階建ての短大校舎の建坪は、延べ約二七〇平方メートル(八百坪強)。

二階と四階が歯科衛生学科、三階と五階が歯科技工学科の講義室と実習室になっている。

各階施設の主な配置は次のとおり。

- 一階 二〇一講堂、教員室、非常勤講師控室、入試対策室
- 二階 二〇二講堂、歯科衛生学科基礎実習室
- 三階 二〇三講堂、歯科技工学科基礎実習室
- 四階 二〇四講堂、多目的室、鑄造研磨室、ポールレン室
- 五階 二〇五講堂、男子ロッカー室
- 六階 二〇六講堂、女子ロッカー室

富士見キャンパス 隣同士だった 富士見町教会

JR飯田橋駅前の富士見町教会、かつての警察病院とともに、飯田橋・牛込橋側のランドマークだった。この富士見町教会は、幕末の日本に近代歯科医学を伝えたイーストレーキが、明治半ば自宅で開いたキリスト教集会を源流とする。

明治四十年(一九〇七)に東京・大手町に開校した本学は、二年後の四十二年に現在地に移転するが、その隣、今の百周年記念館あたりに富士見町教会があった。教会の建物は、大正十二年(一九二三)の関東大震災で消失し、跡地に「バラック教会」が建設される。昭和四年(一九二九)、信徒たちが、現在の飯田橋駅前に新会堂を建立して教会は移転。その後建て替えられた現在の会堂は、昭和六十年に竣工した。

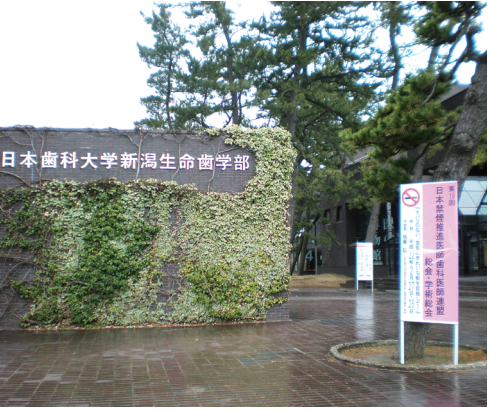
本学が明治四十二年六月に文部大臣あて提出した「私立歯科医学専門学校設立認可願」には、「敷地の面積は四二七坪、建物総坪数四四五坪七合五勺あり。地形は

禁煙推進医師連盟学術大会

本学では、新潟生命歯学部は平成十九年四月一日から、生命歯学部は二十一年六月一日から、キャンパスの敷地内禁煙を実施している。また両学部では、教職員や学生に対して禁煙支援活動にも取り組んでいる。

医療機関、教育機関での禁煙の推進は、大きな課題となっているが、二月二十七日・二十八日の両日、新潟生命歯学部を会場に、第十九回日本禁煙推進医師歯科医師連盟総会・学術総会が開催された。佐藤聡教授(歯周病

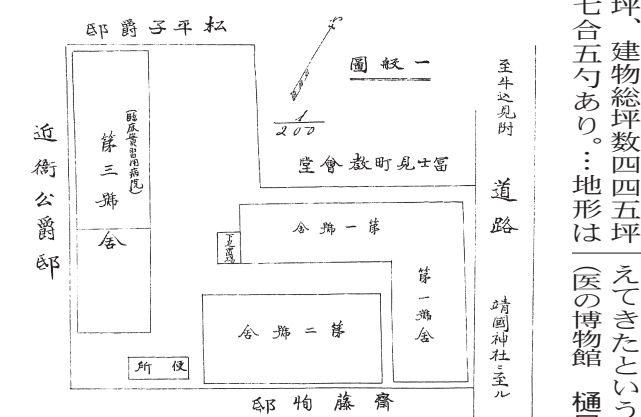
一タバコのない空気のきれいな街を 市民公開講座ひらく



日本禁煙推進医師歯科医師連盟(略称禁煙推進医師連盟)の非喫煙者(禁煙者)の医師と歯科医師で組織された学術団体。一九九二年(平成四)五月三十一日の世界禁煙デーを契機に結成され、国民をタバコの害から守ることを目的とする。会長は大阪府立成人病センターの大島明・がん相談支援センター長。



△隣の富士見町教会旧会堂 <明治末頃の本学校舎正面、右側に教会堂の屋根が見える



「専門学校設立認可願」添付図面(東京都公文書館蔵)

スタンダード 最新刊 歯科医学史

温故知新 - 昔を顧みて今が見えてくる1冊

歴史を振り返ることで今すべきことがわかってくる
歯科医学史の入門書

著 東京歯科大学教授 石井拓男 日本歯科大学新潟生命歯学部 医の博物館客員教授 西巻明彦 日本大学松戸歯学部教授 渋谷 鉦

B5変型判 2色刷+カラー 124頁 定価3,675円(本体3,500円+税)

- 1 古代の歯科医学史
- 2 中世の歯科医学史
- 3 ルネサンスの歯科医学史
- 4 ルネサンスから近代(フォシャール以前の)歯科医学史
- 5 フォシャールとアメリカの歯科
- 6 解剖学の歴史
- 7 外科学の発達
- 8 麻酔法と消毒法の発見
- 9 歯科医学に貢献した発見・発明
- 10 江戸時代までの日本の医療制度
- 11 日本の医学の発達と蘭学の受容
- 12 江戸時代の歯科医療文化
- 13 日本固有の義歯と口腔ケア
- 14 西洋近代歯科医学の導入
- 15 歯科医師会設立から厚生省発足まで
- 16 戦後の歯科衛生士法誕生と歯科大新設ラッシュ
- 17 戦後の歯科医学教育にかかわる制度の変遷
- 18 公衆歯科衛生のあゆみ

目で見る 日本と西洋の歯に関する歴史

大野肅英・羽坂勇司 著
A4判 カラー380頁 定価14,700円(本体14,000円+税) わかば出版



著者が述べているように、歳月を経るにしたがって歴史的資料や歯科医療器具は散逸してしまいがちです。著者の手持ちの資料・蒐集品に加え、神奈川県歯科医師会「歯の博物館」所蔵のものも収載し、歯科医学の変遷や軌跡を知る上で、貴重な一冊となっています。歯科医学史研究者はもちろん、すべての歯科医学関係者にとって、このページを見ても興味深い、貴重な絵画や写真が満載されており、これから歯科医師を目指す学生の方、開業される歯科医師の先生方への贈り物としても最適です。

本来「口腔は全身の一部である」という原点にもどり、今までになかった新しい歯科医学のアプローチの試み

口腔と全身疾患

歯科医療は医学を補完する

中原 泉・鴨井久一 編著
●サイズ:A4判 ●280ページ
●定価:14,700円(本体14,000円+税5%)

クインテッセンス出版株式会社